

Ja-Net

季刊ジャネット

スリーエーネットワーク

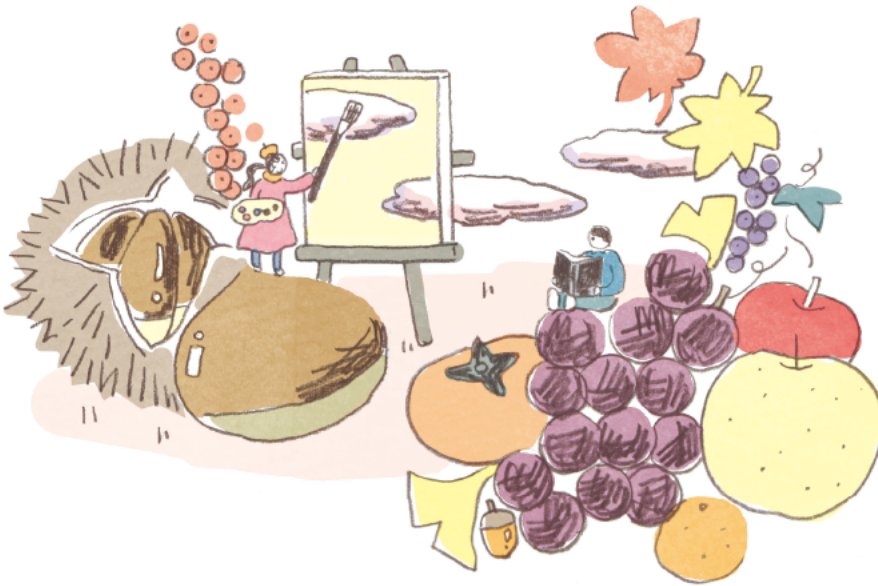
October 2021

No. 99



Contents

- 4 みんなの“日本語 View from the Other Side”
ツァバ ユリア (ポーランド)
- 5 あちこち日本語ご紹介
ポーランド スタラ・ヴェシ
- 6 教材紹介
『留学生のための近代文語入門—現代の日本と日本語を知るために—』
『絵本で教えるにほんご 外国につながる子どものための授業づくり』
『JLPT文法N3 ポイント&プラクティス』
- 8 インフォメーション



巻頭寄稿

世界の日本語学習者を 一人でも多く“日本ファン”に！

— 32 年間の「夫婦の日本語交流活動」—

元・朝日新聞記者

大森和夫



幼稚園から幼なじみの大森夫妻。
感動・感激・感謝の気持ちで作文を審査する

留学生との出会い

「日本人の友達ができない」「日本のことをもっと知りたいのに、それが難しい」—1988年8月、朝日新聞政治部記者として、東京都目黒区の日本国際教育協会・駒場留学生会館(当時)取材した際、韓国・中国・タイ・インドネシア・フランス・アメリカ・エジプト・ブラジルの留学生10数人が口々に訴えた。

特に、その一カ月後に会った中国の留学生・胡東旭さん(東京大学大学院生)の一言が、胸に刺さった。

「日本を嫌いになって帰国する留学生は少なくない。経済的に苦しいのは我慢しますが、日本のことをたくさん知って理解したいのに、日本人との交流が少なく、分かりやすい日本語の教材がないので、それが出来ないのが残念です」。

留学生や世界の日本語学習者の一人ひとりが、将来、日本との“友好の懸け橋”になってくれる民間大使だ。「今の状況は、日本にとって大きな損失だ! 留学生をもっと大切にするのが日本の国際化の第一歩ではないだろうか」という強い思いを抱いた。

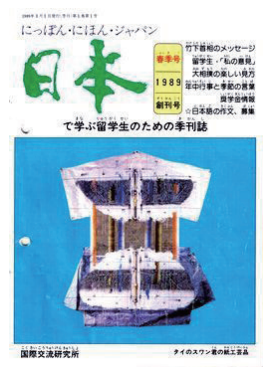
「夫婦で活動」を決断

「留学生に日本を好きになって母国へ帰ってもらい、世界の日本語学習者に一人でも多く“日本ファン”になってもらうために何かしなければ!」

一その思いから、1989年1月、記者生活25年の節目で新聞社を辞め、妻(弘子)と、自宅の四畳半を拠点に「日本語交流活動」という第二の人生を歩もう、と決断した。

中国・韓国・台湾・バングラデシュ・香港などの留学生を、自宅(当時は東京都練馬区)に招いて、何度か夕食会を開いた。そこで、思いついたのが「留学生が気楽に読んでもらえるような季刊誌を作って、無料で配る」という活動だった。

「活動は二人で出来る範囲に止める」「日本語学習者と一緒に学びながら、楽しむ」をモットーに、妻が編集長になって「日本と日本人を理解してもらう」ため、自費で日本語学習・情報季刊誌の発行と無料配布を決めた。



季刊誌『日本』創刊号。第12回までの3年間、すべて手書きで原稿作成

活動の二本柱

1989年にスタートした活動は、主に二つ。

1. 読んで、「日本と日本人」を理解してもらう

1989年3月、季刊誌『日本』を創刊。国内の大学・日本語学校、中国・タイ・韓国・アメリカなど30数カ国の大学に、1997年の第33号まで約72万冊を寄贈。その後、『日本』の内容をまとめた日本語教材『新日本概況』約7万4千冊を中国の大学などを中心に寄贈。

2016年9月に電子書籍・日本語教材『^{にほん・にっぽん}日本という国』をウェブ上に無料公開。<http://www.nihonwosiru.jp/>

2. 書いて、「日本と日本人」への理解を深めてもらう

留学生、中国の大学生・大学院生、世界の日本語学習者、それぞれを対象に32年間計25回「日本語作文コンクール」を主催。応募総数は75カ国・地域から5万1,099人に上った。



応募作品の山々。中国の大学生「日本語作文コンクール」応募作品数3,360編(2004年)

楽しく共に学んだ32年

32年間の活動で、世界の日本語学習者の「日本・日本人・日本語への熱い思い」に接してきた。特に、計4回行った世界の日本語学習者・「日本語作文コンクール」では、様々な国・地域から多くの作文・俳句が寄せられ、感動・感激・感謝の毎日だった。

2018年に開催した第2回・世界の「日本語作文コンクール」(テーマ:「日本」あるいは「日本人」に言いたいことは?)には62カ国・地域から6,793編の応募があった。一等賞(二人)のベナン共和国のアイエドゥン・エマヌエルさん(大阪府立大学大学院)は「今の日本は、自己主張力を備えた“勇者”を必要としている」、イタリアのニコル・フェッラリオさん(カ・フォスカリ大学大学院)は「日本人も他国の文化に“好奇心”を持ってください。そして、“多文化共生”を実現してください」と、日本人への期待を綴った。日本が好きだからこそこの提言だ。

二人の表彰式は2019年4月、朝日新聞社で行い、その後、私たちが入居している老人ホーム(東京都立川市)に招待し、約50人のお年寄りと懇談会、夕食会を催した。

私たちの「日本語作文コンクール」は他のコンクールと異なり、日本語学習者に日本語の学習をしながら日本を知ってもらうことを心掛けた。応募者や指導教師とメールのやりとりをして、応募者本人が納得・了解した場合のみ、日本語を直し、内容を加えた。そ



弘子さんが描いたほのぼのとしたイラスト「こぶ取り爺さん」。季刊誌『日本』1989年第3号「日本昔話」から

言語は「こころの国際化」を実現する重要な手段



第2回・世界の「日本語作文コンクール」表彰式(朝日新聞社にて)。前列中央左から一等受賞者のアイエドゥンさんとニコールさん。前列両脇に筆者と弘子さん



日本人に読んでもらいたい作文112編を集めた計24回の「日本語作文コンクール」作品集、『ユニークな「日本文化」論』



3歳から78歳までの応募があった「俳句コンテスト」の作品集、『俳句と日本語の夢』(いずれも、朝日新聞出版刊)



自宅で発送作業をする弘子さん

の結果、応募者の日本語学習にも役立ち、楽しく共に学ぶことが出来たと思っている。

2020年は、世界で最も短い文学「俳句」をテーマにした。世界の日本語学習者が5・7・5の17音で綴る俳句に挑むことで、日本文化への関心と理解を深めてもらいたいという願いからだ。多くの日本語学習者が参加できるように、俳句と30字前後の説明文で審査することとし、季語のない俳句も可とした。応募数は75カ国・地域の4,013人、9,022句に上った。

夫婦で続けてきた「日本語作文コンクール」は25回で終えた。81歳になった二人には、応募要項の決定から審査、学習奨励金の送金等々、一年掛かりの作業を続けるのが困難になってきたからだ。世界の日本語学習者にオンラインで日本語授業を展開している筈川幸司先生とそのグループが「日本語作文コンクール」を主催する形で継

承してもらえることになり、今年度は、妻と最終審査を引き受けることにした。

世界との日本語交流活動が32年間続いたのは、自費で“二人三脚”の活動を楽しみ、それを、多くの個人の方々に支援して頂いたからだ。

友好・平和の大きな力に！

今後は、ウェブサイトで無料公開中の電子書籍『「日本」という国』を更新し、日本語学習者の日本理解をもっと広げたい。そして、2022年中に活字の教材として出版し、なるべく多くの日本語学習者のために寄贈し、「日本」を知ってもらうために活用してもらいたい、と思っている。

「日本語交流」の拡大には、日本国内の理解者のすそ野を広げることも大切だ。「こころの国際化」を深め、世界に“日本ファン”を増やすためには、日本の若い人たちに世界の日本語学習者の実情と日本への様々な想いを

広く知ってもらうことが不可欠だ。

そこで、これまで主催してきた「日本語作文コンクール」の入賞作品をまとめ、出版した書籍『ユニークな「日本文化」論』(2020年)を日本の高校・約2,200校に寄贈し、『俳句と日本語の夢』(2021年)を約1,600校へ寄贈した。日本の高校生に、世界の日本語学習者の素顔と日本・日本人観を知ってもらい、「日本」を見つめ直してもらいたい。そして、日本語交流の広がりを期待したい。

「高校への寄贈」は、2020年11月20日付の朝日新聞・教育面で紹介され、全国の139人から「寄付」(計107万5千円)を受け、寄贈のための「本」の購入代と郵送料に使わせて頂いた。

人の交流・モノの交流・こころの交流が進めば、異なる国や民族の相互理解は深まり、それぞれの生活様式や文化の違いを認め合うことができる。そして、その相互理解と「こころの国際化」を実現する上で重要な手段として役割を果たすのが、言語だ。

様々な国際交流活動で、日本人なら誰にでも出来る「日本語交流活動」が一層活発になって、世界に“日本ファン”が増えれば、日本にとって友好・平和の大きな力になるに違いない。それが、世界平和に貢献する道でもあると信じている。

大森和夫 (おもり かずお)

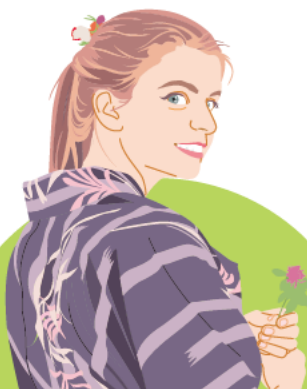


早稲田大学第一政治経済学部政治学科卒業。朝日新聞記者(大分支局、山口支局、福岡総局、大阪・社会部、調査研究室、政治部、編集委員など)を経て、1989年1月、退社し、妻と国際交流研究所を開設。世界の日本語学習者との「日本語交流活動」を始める。
<http://www.nihonwosiru.jp/>

*編集部注)ご夫妻共に2019年12月文化庁長官表彰、2021年8月外務大臣表彰受賞。

みんなの“日本語View from the Other Side”

このコラムでは、学習者や日本語に携わる方の視点から話題をお届けします



ツァバ ユリア

1991年 フランス、パリで生まれる。

5歳からポーランドに住む。7歳で日本のTVアニメ「ムーミン」と「みつばちマーヤの冒険」を見て初めて日本に触れる。12歳で日本のTVアニメ「カードキャプターさくら」に夢中になり、その後ずっと日本と日本アニメの大ファン。

2010年 ワルシャワ大学日本学科入学。書道と茶道に興味を持つ。

2014-2015年 大阪大学に一年留学後、2016年 ワルシャワ大学日本学科修士課程修了。

現在、ワルシャワ日本語学校、ポーランド・シベリア孤児記念小学校で日本語・日本文化を教えている。

illustration 内山洋見

世界の平和は教育から

全て深く知りたくなってしまう。歴史も文化も何もかもが私の世界観を豊かにしてくれるのだからやめられない。

一方で、大阪大学留学時は実際に日本に住むことで言葉や文化の壁に遭遇した。なかなか日本人の本音に分からずに苦労したり、空気を読まなければならない環境に慣れるには時間がかかった。しかし大変だったことも含めて全て、今となってはいい思い出だ。留学した経験によって、私は日本語だけでなく日本文化をポーランドで伝えたいと強く思うようになった。

茶道は長年続けている。茶室は日本人の心を知るための最高の機会を提供してくれる。書道にもものめりこんだ。数年前、中東欧書道コンクールで優勝してからはこれも私の道だと思うようになった。

ポーランドで日本を伝える

大学卒業後、ポーランド最大、350名を超える学生を擁するワルシャワ日本語学校の専任教師として働くことになった。また、ポーランドで唯一日本語教育が行われている小学

校、ポーランド・シベリア孤児記念小学校でも教壇に立っている。

なぜこの道を選んだのか。最近パンデミックで家にいることが多くなり、それについてよく考えるようになった。導き出された答えは1つだけ。「自分が好きなことを周りに伝える仕事をやる。それほど素晴らしい人生はない」ということだ。なぜこんなに日本が好きなのに、日本人として生まれなかったのかとも考えた。しかしその答えは意外と簡単だった。ポーランド人としてポーランドで日本を伝えることが私に与えられた天からの使命なのだろう。

日本を伝える教師として、まだまだやりたいことはたくさんある。舞踊、着付け、ソーラン節…。私は本当に幸せ者だ。私が教えている子供も大人も、みんな日本が好きになってくれる。この流れは一体私たちをどこにつれて行ってくれるのだろうか。そう考えたとき、いつからか「平和」という二文字が私の頭の中に浮かぶようになった。

私は日本とポーランドをつなぐ仕事をしている。同じように全世界で、色々な国の言葉と文化が学ばれ、その目的がその国を好きになることだったらどんなに素晴らしいことだろう。そんな教育を受けた子供たちが作る、将来の世界はどんな姿だろう。戦争をなくし世界を平和にするもの、それはまさに教育ではないかと思う。

不思議な国、日本

高校生になってから日本の映画を見て、マンガも読んで、好きなドラマはセリフを覚えるほど見て何度も涙した。自分でもなぜこんなに日本が好きなのか分からなかった。だから私にとって日本は「不思議な国」と表現するしかない存在だ。私が大学で学んだのは日本学。そして将来も日本と共に生きていくのが当然だと思う自分に会った。日本文化と聞くと何もかも

ポーランドと日本をつなぐ小学校

ポーランド・シベリア孤児記念小学校

日本語教師 ツアバ ユリア

ポーランドの首都ワルシャワから約40キロ離れた田舎町スタラ・ヴェシに、近年日本で注目されている小学校がある。それはポーランド・シベリア孤児記念小学校。国内で最も日本に近い小学校だと言ってよいこの学校ではポーランド孤児の歴史を伝え、それをどう両国の将来に伝えていくことができるのかを子供たちに日々問いかけている。もちろん、日本語や日本文化、日本の歴史教育も行われ、音楽の授業では「君が代」なども練習する。当初は1,4年生だけだった日本語コースは現在では1,2,4,5年生まで広がっている。

ポーランド孤児の歴史

この小学校にはもともと名前がなかった。なぜこんな田舎町の学校がポーラ

ンド・シベリア孤児という名前を冠し、親日教育が行われることになったのか。歴史を少し紐解いてみたい。この学校が開校したのは1965年2月。現在まで2,000人を超える卒業生を輩出している。そんな学校がポーランド・シベリア孤児の校名を冠したのは2018年11月20日のことである。ポーランド孤児とは1920年から23年にかけて極寒の地シベリアから日本軍・日本赤十字によって救出された765名の孤児たちのことである。なぜシベリアにポーランド人たちがいたのか。その歴史は19世紀、ポーランドが世界地図になかった時代に遡る。当時、現在のポーランドを支配していたロシアは多くのポーランド人を政治犯などでシベリア送りにした。20世紀の初め、シベリアには15万から20万人のポーランド人がいたと推計されている。中でも子供たちの命は常に危険にさらされていた。せめて子供たちだ

けでも救おうと設立されたのがポーランド救済委員会だ。多くの国から支援を断られる中、最後に委員会に救いの手を差し伸べたのが日本だった。この温かな両国の感動秘話はポーランドで祖父母から孫へと語り継がれ、現在の親日国ポーランドをつくり上げた。

阪神淡路大震災を機に

そんな歴史の上に立つポーランド・シベリア孤児記念小学校。小学校名を付けるきっかけとなったのは1995年1月17日に発生した阪神淡路大震災だ。日本のニュースを見たポーランド人は同胞の孤児たちを救済してくれた日本に恩返しするのは今しかないと感じ上がった。当時、在京ポーランド共和国大使館で商務参事官をしていたフィリベック氏を中心に募金活動が行われ、1996年と97年に計60名の被災した神戸の子供たちが夏休みをポーランドで過ごすことができた。その子供たちの宿泊場所として活用されたのが現在のポーランド・シベリア孤児記念小学校なのだ。

現在、小学校は拡張工事の最中だ。完成すればそこには日本博物館や日本庭園も造られる予定で、国内外から資金を集めている。子供たちはそんな学校に通うことを今からとても楽しみにしている。2021年5月からはロックダウンの緩和に伴い数カ月ぶりに通常授業が開始された。パンデミックで延期されていた、日本の子供たちと共同で行う書道展示会も近いうちにできるかもしれない。今後も子供たちが日々ワクワクする日本とのつながりを提供し続ける学校でありたい。



書道の授業で自分の名前を書く子供たち



浴衣の着付け体験をして合掌！

『留学生のための近代文語文入門—現代の日本と日本語を知るために—』

庵功雄 著

B5判 163頁 別冊 12頁(予定) 2,200円(税込) 12月発行予定

近代文語文を通して、現代の日本と日本語を知る

一橋大学国際教育交流センター 庵 功雄

本書は上級学習者のための近代文語文読解用の教材です。本書で取り上げたのは福沢諭吉、中江兆民ら明治、大正を代表する知識人の文章で、その内容は、基本的人権とは何か、政治家に求められる資質、戦争、死刑廃止、憲法、公害、企業(人)の倫理など、極めて現代的な問題につながっています。近代文語文を学ぶことで、こうした問題に関する明治、大正時代

の日本人の知見を手にし、現在の日本や留学生自身の国が抱える問題を考える手がかりが得られます。

本書のもう1つの狙いは、現代日本語についてのより深い理解を得ることです。近代文語文を知ること、「情けは人のためならず」という諺にどうして2つの解釈が生まれたのか、「ら抜きことば」とは何なのか、といった問題を理解できるようになり、日本語のしくみや日本語の歴史について考えるきっかけにもなります。

本書は留学生を主たる読者とするものですが、中学生、高校生が古文や日本史を学ぶ際の入門書としてもお使いいただけます。また、大学における日本人学生と留学生の混合クラスでの素材として、あるいは、日本語学的観点を取り入れた古文教育といった観点からのご利用いただけたらと考えています。

本書が多くの方の日本および日本語に対する理解の深化に役立つことを願っています。

『絵本で教えるにほんご 外国につながるのある児童のための授業づくり』

野呂きくえ 著

A5判 170頁(予定) 1,760円(税込) 12月発行予定

絵本を使って、楽しく日本語を教えよう!

日本語教師・絵本作家 野呂きくえ

日本の小学校・中学校には、日本語が母語ではない子がたくさん通っています。私はそうした子どもたちに日本語を教えて25年になります。

私は外国につながるのある子どもたちにきちんと文法を教えることは大切だと考えています。それは、文法がわかってこそ、作文が書けて、教科が理解できるようになるからです。

この本は『みんなの日本語 初級I』の文法を、小学生に絵本を使って教えるアイデアを紹介しています。絵本を使うことで文法を楽しく積み重ねながら、「考える力・聞く力・読む力・話す力・書く力」をつけるヒントが載っています。絵本は、文法項目ごとに定着のために効果的に使えるものを120冊程度紹介していますので、ぜひ参考に見てください。また、「こぼれ話」として、授業中、子どもたちがぼそっとつぶや

いた言葉を載せました。こんなにかわいい子どもたちが日本の教室にいること、そしてとても楽しく日本語を学んでいる様子を感じていただけたらと思います。

これから日本語を教えようとしている方・学校の担任の先生・小さなお子さんのパパやママ・外国で暮らす日本人の親御さんなどたくさんの方々に読んでいただきたいです。

『JLPT文法N3 ポイント＆プラクティス』

齋藤明子・田川麻央・森田亮子・小谷野美穂 著

B5判 120頁 別冊56頁(予定) 1,320円(税込) 2022年1月発行予定



ポイントを絞って効率よくN3文法を身につけよう

齋藤明子

進学や就職のためのツールとして日本語を学びたい学習者には、より効率的に学べる教材が求められています。本書は、学習者が限られた時間の中でN3文法のポイントを効率よく学べるようにという狙いで作った問題集です。「時間がない」という学習者や「堅苦しい勉強は苦手」という学習者にも負担を感じさせず、練習問題を解きながらN3の文法知識を確実に身につけられることを目標にしています。また同時に、学んだ文法で世界が広がることも実感できる内容となっています。N3合格を目指す学習者の方に、ぜひ使っていただきたい問題集です。

本書の構成と内容

< 問題 >

- ・各回5つ程度の文法項目で、全30回。5回ごとに「まとめの問題」があり、復習ができます。最後の「模擬試験」で実力を測ることができます。
- ・各回の導入部分(「声に出して言いましょう」)では、学習者が日本の生活で経験すると想定される談話を提示しました。文法項目一つひとつを独立して学習するのではなく、日常場面や人間関係などを表す談話の中で理解してもらうことを狙いとしています。
- ・各回の練習問題は能力試験と同形式の問題を中心とし、読み物や談話などのまとまった文章の問題も扱っています。学習者が誤りやすいポイントに焦点を当てて、穴埋めや選択などの問題を取り入れています。
- ・まとめて学習したほうがわかりやすい文法項目は、機能別に提示し、違いが確認できるようにしました。「カジュアルな表現」「敬語」「接続詞」「副詞」の4つを提示しています。

< 文法リスト >

練習問題に対応した文法リストです。各文法項目の意味や使い方、接続のルール、例文を確認することができます。意味や使い方には英語・中国語・ベトナム語の翻訳が付いています。

< (別冊) 解答・解説 >

問題の正答とその理由を確認することができます。解説には英語・中国語・ベトナム語の翻訳が付いています。

本書の使い方

まず、「問題」ページの談話部分(「声に出して言いましょう」)を音読させ、文法項目の導入をします。それから「問題」を解かせて、どのくらい理解しているかを確認します。最後に「文法リスト」に沿って、文法項目の使い方や接続のルールなどを見直す、という手順で進めます。

余裕がある場合は、発展練習として、「問題」の談話部分を場面を変えるなどのアレンジをして発表させる、または、「問題」の読解問題を、音読や暗記、そのテーマについて話し合うといった活動をしてもらいと思います。





留学生のための近代文語文入門—現代の日本と日本語を知るために—
絵本で教えるにほんご 外国につながるのある児童のための授業づくり
JLPT文法N3 ポイント&プラクティス
ゲンバの日本語 単語帳 IT 働く外国人のためのことば
ゲンバの日本語 単語帳 建設・設備 働く外国人のためのことば

2,200円 12月発行予定
1,760円 12月発行予定
1,320円 2022年1月発行予定
990円 2022年1月発行予定
990円 2022年1月発行予定

お知らせ

日本語学習者の俳句コンテスト入賞作品集 『俳句』と日本語の夢』を抽選でプレゼント

今号で巻頭記事を寄稿して下さった大森和夫さんと弘子さんが編集された『世界(47カ国・地域)の日本語学習者102人の「俳句」と日本語の夢』(朝日新聞出版)を、25名の方にプレゼントいたします。

これは、2020年に大森さんご夫妻が主催された、世界の日本語学習者を対象とした「俳句コンテスト」の入賞作品を収録した書籍です。世界の日本語学習者が、「五・七・五」に果敢に挑戦した「俳句」から、彼らの日本への熱い眼差しと様々な日常風景が伺えます。ぜひご覧になってください。



【応募方法】

●ウェブサイト

<https://bit.ly/Ja-Net99>

●FAX・はがき

右記のアンケートに回答の上、お名前、



ご住所、お電話番号とあわせて、Ja-Net編集室(本頁下の連絡先)までお送りください。

Q1.日本語を教えている場所はどこですか。

- ①日本語学校 ②専門学校 ③大学
- ④地域日本語教室 ⑤小中学校・高校
- ⑥企業・団体
- ⑦技能実習生受け入れ協同組合
- ⑧その他 ⑨教えていない

Q2.Ja-Net今号について、ご意見や感想などをお聞かせください。

【締め切り】2021年11月30日(火)

23:59 (はがきは当日消印有効)

【当選発表ならびに個人情報の取り扱いについて】

プレゼントの当選発表は商品の発送をもってかえさせていただきます(12月発送予定)。また当選案内の連絡がつかない場合、当選は無効となります。応募していただいた方の個人情報はプレゼント発送以外の目的には使用いたしません。

「教材紹介動画」公開

ウェブサイトから、好きな時に自由にご覧いただける「教材紹介動画」を公開して

います。著者に教材の概要や授業での使い方などをお話しいただいています。

一つの動画は10~12分程度です。

教材について知りたい方はもちろん、すでに教材を使っている方も、ぜひご覧ください。

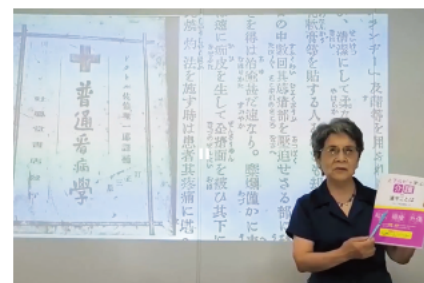
・『上下ルビで学ぶ介護の漢字ことば』

・『JLPT文字・語彙N3 ポイント&プラクティス』

・『JLPT読解N3 ポイント&プラクティス』

<http://bit.ly/>

KyozaiShokaiDoga



本書の構成 リストパート

漢字リスト

【字数】各回6文字前後×30回

【漢字語の例】主に既習語彙から提示

N3レベル相当の未習語彙は翻訳付き

太めの教科書体で見やすく、

手書きの見本となる字形を提示

※ゴシック体や楷書体ではなくUDデジタル教科書体



季刊ジャネット

Ja-Net No.99

スリーエーネットワークという社名は、アジア(Asia)、アフリカ(Africa)、ラテン・アメリカ(Latin America)の三つの地域をネットワークでつなぎ、相互理解と友好促進を図ろうという趣旨をシンボライズしています。

2021年10月25日発行

●発行人 藤崎政子

●発行所 (株)スリーエーネットワーク

Ja-Net 編集室

〒102-0083 東京都千代田区麹町3-4

トラステイ麹町ビル2F

TEL: 03-5275-2722 FAX: 03-5275-2729

E-mail: sales@3anet.co.jp

<https://www.3anet.co.jp/>

●デザイン ペーシック 畑中 猛

●イラスト 須山奈津希(P.1, 8)

●印刷 (株)ワコー

© 2021 by 3A Corporation

Printed in Japan (禁無断転載)

「Ja-Net」をご希望の方はお名前・ご住所・ご所属を編集室までお知らせください。無料でお送りいたします。次号は2022年1月25日発行予定です。